

## 令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

## 事業実施報告書

- |     |                                    |
|-----|------------------------------------|
| I   | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び   |
| II  | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成           |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築        |
| IV  | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V   | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成      |

道府県・政令市名【 福島県 】

学校名【 会津若松市立湊中学校 】

1 実践テーマ	Ⅲ・Ⅴ
2 実施対象者 (学年・人数)	1 学年生徒 7名 2 学年生徒 8名 3 学年生徒 7名 計 22名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (総合的な学習の時間・保健体育科) ② 行事名 (校内駅伝大会) ③ その他 ( ) (2) 地域における活動 ① イベント名 ( ) ② その他 ( )
4 目標 (ねらい)	「私たちのオリンピック・パラリンピックムーブメント」をテーマに掲げ、パラリンピアンや一線級のアスリートの交流を通し、諦めない心とスポーツの価値を学ぶ。
5 取組内容	<p>○校内推進委員会の設置・事業計画の立案・推進テーマの決定</p> <p>○オリンピック・パラリンピックの調べ学習 (総合的な学習の時間 7月 全学年各2時間) テーマ「福島県のオリンピック・パラリンピアンを調べよう」 教育講演会①の事前学習として、福島県出身のオリンピック・パラリンピアンの活躍を調べる活動を通し、本活動への関心を高めさせた。</p> <p>○オリパラ教育講演会① 総合的な学習の時間 8月31日(月) 講演「パラリンピアンから学ぶ ～Never give up～」 講師:鈴木猛史氏(パラリンピックチェアスキー金メダリスト) パラリンピックチェアスキーのメダリストである鈴木猛史氏の生き方についての講話を通し、「障がい＝不幸」ではないこと、できないと諦める前に、まず挑戦することが大切であることを学んだ。</p>



○保健体育科での陸上競技（長距離）の学習  
 9月（1年3時間、2年3時間、3年4時間）  
 教育講演会②の事前活動として、保健体育科授業で長距離走の授業を組み、各自に長距離走に関する課題を持たせた。

○オリパラ教育講演会②（校内駅伝大会）9月30日（水）  
 （保健体育科3時間）  
 講演「駅伝競技とオリンピックを目指す選手の指導を通して」  
 講師：安西秀幸氏（都道府県対抗男子駅伝福島県チーム監督）  
 全国都道府県対抗男子駅伝大会において、福島県を東北勢初の優勝に導いた安西秀幸さんにご講話と実技指導をいただき、オリンピックへの関心を高めた。講演会では、自分のためではなくチームの仲間のために、つらい練習に向き合うことができた話を聞き、スポーツの価値の高さを再確認することができた。

また、講演会後は、校内駅伝大会において実技指導をして頂いた。

○オリンピック・パラリンピック教育推進事業で活動した内容をまとめ、学校祭（湊中祭）において保護者に発表をした。



6 主な成果

本校では、「一線級のアスリートから学ぶ諦めない心」をテーマに取り組んできた。

鈴木猛史氏より「失敗をしてもそこから多くを学べば良いこと」、安西秀幸氏より「つらくても、自分を支えてくれた人やチームの仲間のために乗り切ることができた」とのお話を聞くことができた。教育講演会を2回実施し、二人のアスリートのお話を聞く機会を設定できたことは、それぞれに強い精神力を持ち続けることができる理由を知ることになった。

鈴木猛史氏の「障がいは決して、不幸ではない。始める前からできないと諦めていたら何も始まらない。失敗を恐れずにもうやってみよう。」の言葉に影響を受けた生徒が多く見られた。

＜生徒の鈴木さんへの感謝の手紙抜粋＞  
 一番心に残ったことは、あきらめないということです。水泳をやったり、サッカーのルールを変えて取り組んだりあきらめないというのはとても大事なんだと思いました。ぼくは、すぐにあきらめてしまうことがあるので、何でも最後まであきらめないでがんばろうと思います。

	<p>また、安西秀幸氏の「つらい練習の時に、チームの事、仲間のことを考えるとのりきれる」の言葉に心を動かされる生徒が多く見られた。</p> <p>＜生徒の安西さんへの感謝の手紙抜粋＞</p> <p>私は、辛い練習になった瞬間にすぐにあきらめてしまいます。だけど、安西先生のお話を聞いていると、「走っているときにチームのことを思う。」その言葉で私の気持ちは変わったと思います。バスケット部のプレー中も、チームのことを思ってあきらめずに最後まで頑張ろうと思います。</p>
<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>パラリンピックとオリンピックの両大会を、スポーツの祭典として同等の価値があると生徒がとらえることができるよう進めたいと考えた。そこで、本校では、パラリンピアンメダリストである鈴木猛史氏とオリンピックを目指す一線級のアスリート育成にたずさわる安西秀幸氏を講師に招聘し、生徒にスポーツの価値の高さとその多様性に気づかせるよう工夫した。</p>
<p>8主な課題等</p>	<p>当初は、地域の方々にもご参加頂く予定だった。実際に地域の方より参観希望の声が寄せられた。しかし、新型コロナウイルス感染症対策のため、外部の参観者は入れないこととしていたためお断りした。しかし、コロナ禍の状況でなければ、地域住民に広く公開したい内容であった。</p>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>本事業を通して、本校の目指す生徒像「自学・共生・自立」とリンクさせながら、今後も、「Never give up」の精神を育てていきたい。</p>